

車いすバスケット

障害者スポーツ「丹波に広めたい」
指導者協議会

ひよつご障害者スポーツ指導者協議会丹波地域（明石市）と日本車いす委員会（吉田克則・丹波地域担当）が10日、芦田集学校体育館で同地域の障害者スポーツ指導者を対象に、車いすバスケットボールの講習会を開いた。約20人が受講。プレーに必要な車いすの操作や、パスやドリブルなどのボールの扱い方、ルールなどを教わり、さわやかな汗を流した。県障害者スポーツ協会

専門員の増田和茂さん（明石市）と日本車いすバスケットボール連盟近畿ブロック審判員の長久博志さん（氷上町清住）が講師を務めた。

受講者の大半は健常者のため、車いす操作に慣れていないことから、前進や後退、停止などの基本操作を学んだ。

増田さんから「車いすを停止させる際は、タイヤを強く押え、上半身は後ろに反らすようにす

る。反らさないと、止まった衝撃で重心が前に傾き、倒れてしまう可能性がある」などと教わる。一通り、基本的な動作を覚えると、鬼ごっこをして車いすを自在に操ることの難しさを体感。



車いすバスケットボールの紅白戦を楽しむ受講者たち＝青垣町田井縄で

総仕上げとして4対4で紅白戦を行い、にぎやかな声を張り上げながらプレーに興じていた。

受講者で、丹波市内の障がい者でつくるスポーツサークル「サークルふれあい」の会長でもある田邊安彦さん（60）＝氷上町絹山＝は、「大勢の指導者が集まってくれた貴重な時間となった。車いすバスケットは、障がい者と健常者が一緒になって楽しめるスポーツ。将来、丹波地域に普及させ、チームがつくれたら」と話している。

たんばスポーツ

彰

「優秀警察官表彰状・優良家族感謝状贈呈

住民と警察の相互理解、信頼の確保に貢献したと、さん(32)▽田井縄駐在所員の妻、太田友貴さん